

はつりハフォーラム

医療連携特集

第 7 号

H18 年 11 月 20 日

院長 林 泰史

昨年に続き、今年も地域の先生方と東京都リハビリテーション病院との連携の会を開催することに致しました。東京都リハビリテーション病院はリハビリテーション医療を必要とする患者さんを広く都内から紹介していただき入院加療して参りましたので、地域の先生方との連携が弱く、業務の内容を十分にご理解願えていなかった側面が多い様に思われ、この点を反省しております。しかし、社会に戻って幸せな日々を送っていただくことを目的としたリハビリテーション医療こそ地域との連携が重要になって参りました。と申しますのは、障害者の80%以上が合併症を有しがちな高齢者である21世紀において、心身の機能が日常生活を享受するまでに治療しても原因疾患を治療し続け、再発を防止しなければなりません。このために、地域の先生方と東京都リハビリテーション病院との協働診療は必須となります。また、在宅要介護高齢者対応、介護予防、運動器不安定症対応など先生方との連携課題は山積しておりますので、都民のためにフェイス・ツー・フェイスの関係をよろしくお願い申し上げます。



東京都医師会副会長・当院副院長（非常勤）内藤 裕郎

東京都リハビリテーション病院の管理運営につきましては、東京都の要請を受け、昭和63年11月に東京都医師会が全面受託することを機関決定して以来、毎年東京都と委託契約を結び管理運営を行ってまいりました。

本年4月からは、指定管理者制度の導入に伴い、指定管理者としての指定を受けております。この間、心温まる医療の実践を目指し、リハビリ医療を必要とする都民に適切に対応できましたことは、近隣地区医師会並びに都内の各医療機関の協力による賜であり、改めて感謝申し上げます。

今後、更なる高齢社会を迎えることは、生活習慣関連疾患としての脳血管疾患の増加などに、また転倒事故等による骨折等に対応した早期かつ高度のリハビリの必要性を示唆しております。またこのことにより地域と連携した専門リハビリは欠かせない存在となります。

東京都医師会は、地域医療の責任ある担い手として、東京都リハビリテーション病院の指定管理者の立場で地域リハビリテーションにおける医療・保健・福祉のシステムづくりに先導的な役割を果たしていく所存であります。



東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

診療部自己紹介【1 出身大学 2 指定医・認定医など 3 プロフィール】

院長 林 泰史（はやし やすふみ）整形外科

1：京都府立医科大学

2：日本リハビリテーション学会専門医、日本リウマチ学会認定医・指導医、日本老年学会専門医・指導医、日本骨代謝学会評議員、日本骨粗鬆症学会評議員、日本保健科学学会理事

副院長 内藤 裕郎（ないとう ひろお）

1：東京慈恵会医科大学卒業

2：日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医、日本内科学会、日本臨床内科医会

副院長 高坂 哲（たかさか さとし）泌尿器科

1：東京慈恵会医科大学 泌尿器科学教室

2：日本泌尿器科学会；専門医・指導医、日本リハビリテーション医学会；認定臨床医・専門医、日本性機能学会；専門医、その他、日本老年泌尿器科学会、日本排尿機能学会 会員。



3：卒業後大学病院および県立厚木病院で一般泌尿器科を学び、次いで

神奈川リハビリテーション病院にて5年間、脳卒中患者・脊髄損傷者の排尿・排便管理および性機能障害の診断・治療を研鑽した。その後開院時（H2年）より当院に勤務し、障害者の排尿・排便の評価・管理指導（内服療法、尿集器の利用、間欠導尿・間欠バルン留置法、洗腸法など）を主に行い、今日に至っている。年々リハビリ病院に対する都民のニーズや期待は高まりつつあり、ファックス入院予約や土曜訓練の導入など、個々の患者様に合った早期、かつ質の高いリハビリ医療の提供に努力してきました。今後も保険制度の改革など医療を取巻く現状も踏まえ、さらに患者様が満足されるリハビリ医療の実践を目指し、努力して行きたいと考えています。

副院長 柳原 幸司（やなぎはら こうじ）リハビリテーション科

1：東京大学医学部卒

2：日本リハビリテーション医学会専門医、臨床認定医

3：東大病院、国立療養所東京病院、都立神経病院、都立府中療育センターなどを経て平成14年より当院。リハ科医長、リハ部長を経て平成18年9月より、副院長、医療福祉連携室長兼務。脳血管障害、神経疾患（当院では行っていないが小児疾患、呼吸器疾患）などのリハビリテーションを主に行い、嚥下障害、高次脳機能障害に対しても、日々研鑽を重ねております。また地域リハビリテーションの実現に向け、諸機関との連携を深めていく活動を行っています。



医長 植松 海雲（うえまつ みくも）リハビリテーション科

1：東京慈恵会医科大学卒、

2：日本リハビリテーション医学会専門医、臨床認定医

3：脳卒中患者様を中心にリハビリテーション全般を担当しています。親切、丁寧な診療を心がけ、患者様が笑顔で生活していける事を目標に、家族、スタッフとのチームワークでサポートいたします。



医長 小山 照幸（こやま てるゆき）リハビリテーション科

1：聖マリアンナ医科大学

2：専門医：日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医、
日本心臓血管外科専門医

認定医：日本胸部外科学会認定医、日本外科学会認定医

学会資格：日本リハビリテーション医学会指導責任者、日本心臓リハビリテーション指導士、日本蘇生学会蘇生法指導医

資格：身体障害者福祉法（15 条）指定医（肢体不自由の診断、心臓機能障害の診断、音声機能、言語機能障害の診断、そしゃく機能障害の診断）、
義肢装具等適合判定医、介護支援専門員

所属学会：日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会評議員、日本外科学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本蘇生学会、日本臨床外科学会



3：本年 4 月に当院に赴任いたしました。国民医療費の高騰化、高齢者人口の増加などがこれからますます進み、不安がいっぱいの社会ですが、障害をおった方々の、家庭復帰をめざしたリハビリを行うことは勿論のこと、健康な高齢者の身体能力の維持、生活の質の維持についても考えていけないといけないと思っています。患者の視点に立って、急性期病院、当院、地域の病院・診療所、介護保険事業所との連携をより深めていけるようにしたいと思います。また循環器疾患の増加に対して、当院でも循環器・呼吸器系のリハビリができるようにしていきたいと考えています。

医員 新藤 恵一郎（しんとう けいいちろう）リハビリテーション科

1：慶應義塾大学医学部

2：日本リハビリテーション医学会 認定医・専門医

3：リハビリ科医師の役割は、病棟の管理者にとどまることなく、リハビリ医療にかかわる数々の職種のチームリーダーとして、リハビリをよりスムーズに進めることにあります。患者さんやそのご家族に対して自分がかかわる事によって、何らかのプラスを見出すことができないか、日々考えています。専門分野は、神経生理学（経頭蓋磁気刺激・筋電図）を基礎として、現在、脳卒中患者の麻痺側上肢機能を改善する介入を検討しております。



医員 水野 勝広（みずの かつひろ）リハビリテーション科

1：慶應義塾大学医学部

2：日本リハビリテーション医学会認定臨床医、専門医、指導責任者
日本臨床神経生理学会、日本脳卒中学会

3：慶應義塾大学病院のリハビリテーション科で研修後、市川市リハビリテーション病院、慶應義塾大学病院リハビリテーション科、慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターで勤務し、2006 年 1 月より、当院に勤務しています。脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患などによる身体障害、高次脳機能障害などに対するリハビリテーションを専門としています。神経疾患の診断・障害の評価のために、神経伝導検査、筋電図なども行っております。



医長 向井 英一（むかい えいいち）整形外科・リウマチ科

1：日本医科大学卒 医学博士

2：日本医科大学リウマチ科客員講師、日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医、認定脊椎脊髄病医、日本リウマチ財団登録医、日本リウマチ学会専門医、評議員、指導医、日本リハビリテーション学会臨床認定医、専門医、指導責任者
ICD 制度協議会認定 infection control doctor 日本医師会認定産業医
介護支援専門員



3：リハビリテーション病院の整形というと、“手術や外傷後の運動療法だけを行う”という偏ったイメージで捉えられがちです。しかし、当院においても患者さまの多くは複数の合併症をもたれて入院されてきますので、当院内科とともに、時には近隣の先生方のお力を借りて、合併症の管理・治療・早期在宅退院へ向けてリハビリを実施しています。重症の関節リウマチに関しては、薬剤による活動性コントロールから、手術、リハビリといったトータルな治療を行うよう努力しています。

医長 田中 秀和（たなか ひでかず）整形外科・リウマチ科

1：日本医科大学（平成3年卒業）

2：医学博士 日本整形外科学会専門医・認定リウマチ医

日本リウマチ学会専門医・登録医身体障害者福祉法第15条指導医（肢体不自由）



3：変形性関節症、関節リウマチなどに対する外科治療、リハビリテーションを中心に行っております。日本医科大学付属病院、湯河原厚生年金病院、国立病院機構神奈川病院などでリウマチ性疾患の診療にあたっていました。

医員 丹野 亮（たんの まこと）整形外科・リウマチ科

1：日本医科大学 出身

2：日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 認定医
日本リウマチ学会 指導医 日本リウマチ学会 認定医 日本リウマチ財団 登録医 身体障害者福祉法第15条指定医（肢体不自由） 日本整形外科学会 日本脊椎脊髄病学会 日本リウマチ学会 日本リハビリテーション医学会



3：葛飾で生まれ育った私としては東京都リハビリテーション病院で勤務し診療や手術ができるのは、生まれ故郷に戻った様な気持ちで一杯です。下町の義理と人情は忘れず、さらにはこれまでの経験をもとに確かな高い専門知識を持って、脊椎脊髄病やリウマチ性疾患などの運動器疾患に悩む患者さんのために地域の皆様や諸先生方に少しでもお役に立てるよう力を尽くす所存です。

医長 堀田 富士子（ほった ふじこ）医療福祉連携室地域リハビリテーション科長

1：山形大学医学部卒、医学博士

2：東京都リハビリテーション協議会部会専門委員 東京都医師会地域福祉委員会委員 慶応義塾大学医学部非常勤講師（リハビリテーション医学研修指導）

リハビリテーション医学会専門医 リハビリテーション医学会臨床認医
義肢装具当適合判定医・身体障害者福祉法判定医 日本医師会認定産業医
元東京専売病院リハビリテーション科部長



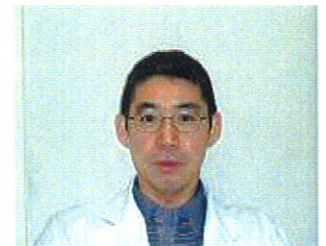
3：地域の中で、リハビリテーション医療のノウハウを活かし、障害者や高齢者の自立支援についてお手伝いしたいと考えています。地域リハビリテーションのあらゆる相談にのれるようなシステムづくりなど、検討中です。

医長 石川 貴史（いしかわ たかし）内科

1：日本医科大学医学部

2：日本医師会認定産業医

3：内科（循環器）は一般の循環器疾患の診療を行っていますが、リハ目的で入院した患者さんの循環器リスクの評価及び管理、さらに、整形外科の手術前の心臓機能評価や手術後の内科管理についても、主治医と連携して診療しています。



医員 永長 周一郎（ながおさ しゅういちろう）歯科

1：日本大学松戸歯学部卒

2：歯学博士，日本障害者歯科学会認定医，介護支援専門員，日本インターネット医療協議会認定eヘルス倫理コードマネージャー東大病院分院歯科口腔外科・医員，文部技官教務職員，東大保健センター歯科，東芝病院歯科口腔外科，大宮共立病院歯科口腔外科・科長，大生病院歯科口腔外科・医長日本リハビリテーション医学会，日本摂食・嚥下リハビリテーション学会，日本障害者歯科学会，日本老年歯科医学会，日本口腔外科学会，日本口腔科学会，日本有病者歯科医療学会・広報委員，評議員



3：障害者歯科，摂食・嚥下リハビリテーション，歯科口腔外科診療に従事，一般歯科から口腔外科，嚥下リハビリまで幅広く対応。臨床研究では，在宅医療助成勇美記念財団，財団法人フランスベッドメディカルホームケア等より研究助成を受け，口腔ケアの普及・推進に取り組んでいます。

（口腔ケア研修支援センター・ホームページ <http://www.oral-reha.org/>を管理中）



スタッフ数は平成 18 年 11 月 1 日現在です

理学療法
常勤 18 名
非常勤 6 名

作業療法
常勤 13 名
非常勤 4 名

言語療法
常勤 5 名
非常勤 4 名

心理指導
常勤 2 名
非常勤 1 名

看護部紹介



「リハビリテーション看護」と「災害看護」 「出来る人材」がたくさん活躍！

入院中の患者様にとっての生活の場は病棟です。私達は一人ひとりの患者様の目標に即した質の高い看護を提供し、本来の生活の場である家庭や社会、地域で生活が送れるよう、自律に向けた支援を行っています。

また当院は災害時に、白鬚東防災拠点内の医療救護活動を行う病院でもあります。看護部では今年度より、災害対策委員会を立ち上げ、地域合同の災害訓練時には災害メークを行い、リアリティーのある訓練を行っています。

(H18年 10月 29日 実施風景)

お知らせ

来年、平成 19 年 11 月 10 日(土)「日本リハビリテーション看護学会学術大会」を浅草公会堂にて、当院主催で行います。多くのかたのご参加をお待ちしています。

<編集後記>

「顔の見える連携」特集をお送りしました。調理訓練の成果を「評価」する医師やスタッフの笑顔も見せたいところですが。おついでの折、気軽に見学にもお立ち寄り下さい。＜医療福祉連携室＞